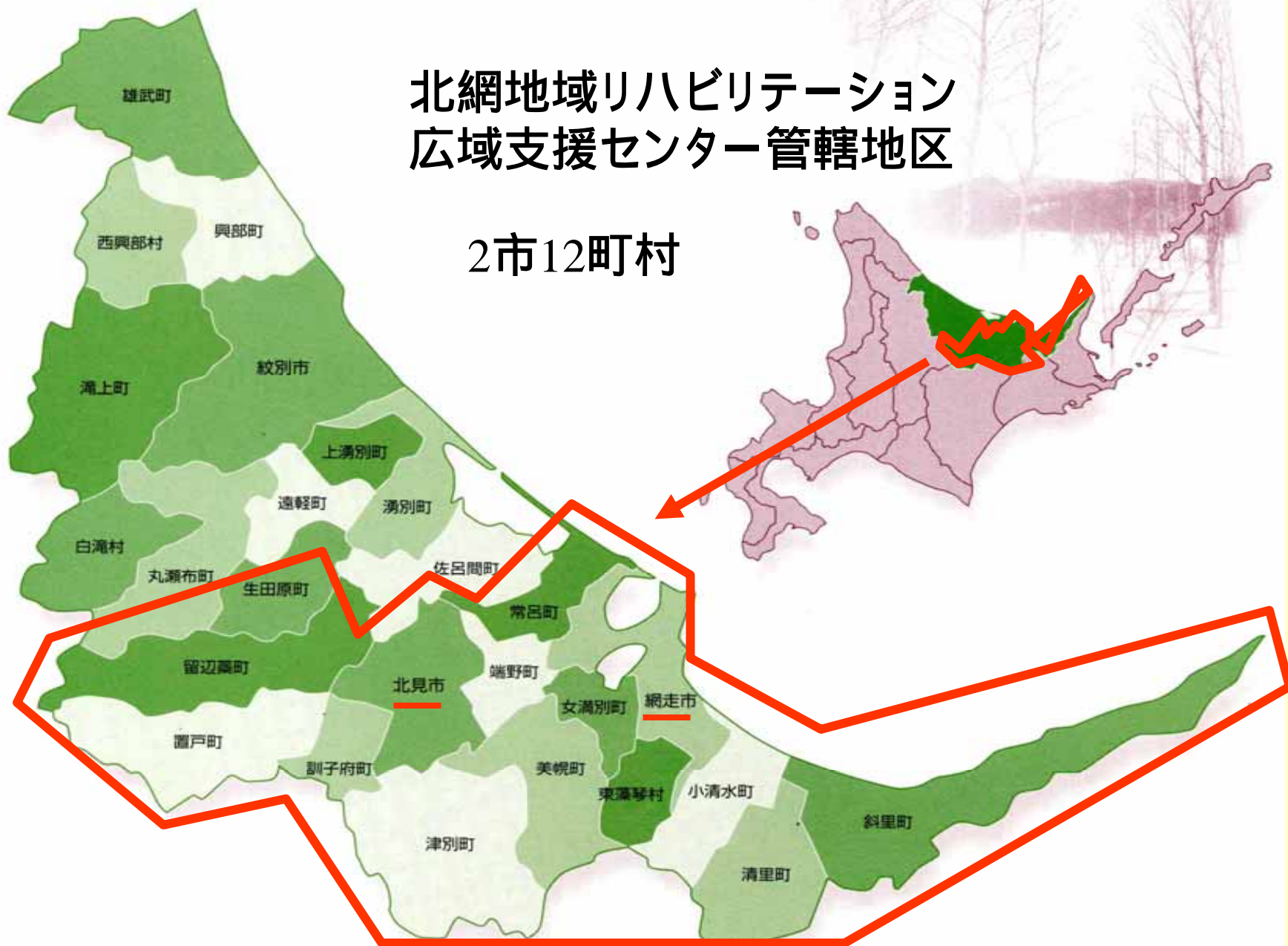


北網地域リハビリテーション 広域支援センター 4年間の活動と今後の課題

北網地域リハビリテーション広域支援センター
事務局 関 建久(所属:介護老人保健施設 あるかさる)

北網地域リハビリテーション 広域支援センター管轄地区

2市12町村



北網地域リハビリテーション 広域支援センター

平成14年9月30日設立

	構成団体	協力病院
会 員	<ul style="list-style-type: none">・北見・網走・美幌医師会・北見歯科医師会・PT・OT・ST士会支部・北海道看護協会北網支部・北見保健福祉事務所	<ul style="list-style-type: none">・北見赤十字病院・オホーツク海病院・北星脳神経外科病院・網走脳外・リハ病院
事 務 局	(初 代) 北見赤十字病院 (現 在) 網走脳神経外科・リハビリテーション病院 (次年度) オホーツク海病院	

2年周期で持ち回り

対象とする住民相談支援機関

総件数392機関

種 別	機関数	種 別	機関数
医療機関	95	訪問看護	16
歯科医院	75	訪問介護	29
特養ホーム	16	認知症GH	24
老健施設	7	福祉用具	11
通所施設	23	市町村	16
居宅介護支援	46	在介センター	24

講師バンク 講師派遣活動

- 平成14年9月より現在まで、18回の派遣を実施、合計466名の参加者があった。
- 派遣先は市町村・養護学校・介護保険施設などの看護・介護職員、保育士や教員。
- 講師バンク登録者は今年度は9機関から22名で構成。

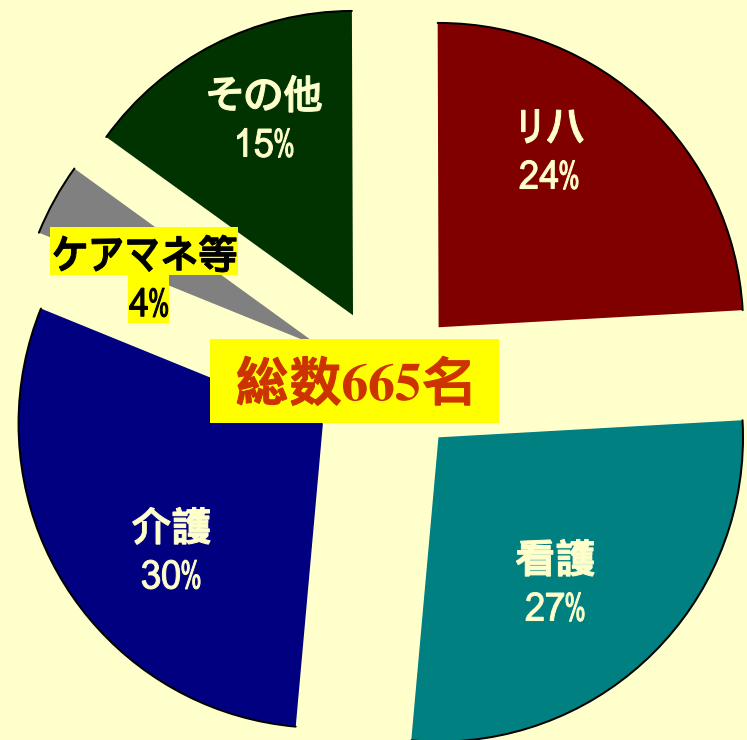
派遣内容

研修会テーマ・タイトル	自立活動研修会(北海道網走養護学校) 摂食指導について
北見日赤リハビリ研修会(北海道網走養護学校)	ケア担当者実務者研修会(訓子府町役場)
網走管内言語障害児教育研究協議会・研修会	平成16年度在宅障害児介護指導支援事業 「生き生き親子教室」
自立活動研修会(北海道網走養護学校) 低緊張のこどものアプローチ	施設内研修(こもれびの里) 嚥下困難者に対するアプローチについて
平成15年度北海道網走養護学校サマーキャンプ	施設内研修(こもれびの里) 高齢者の意欲向上とリハビリテーション
美幌町介護事業所リハビリ研修会	軽度発達障害児と作業療法士の関わり (訓子府町役場)
地域ケア会議(北見市基幹型在宅介護支援センター)	平成16年度清里町社会福祉協議会 職員研修会 コミュニケーション障害の理解
平成15年度オホーツクブロック介護支援専門員研修 (基礎課程)	平成17年度北海道網走養護学校サマーキャンプ 支援者ミーティング
痴呆症状のある人への対応について(訓子府町役場)	平成17年度網走管内老人福祉施設協議会 介護職員研修会

研修会の実施

- 住民相談機関 392機関
の従事者に対する
研修を実施
- 過去 11回開催
参加者 665名

参加職種



研修会

研修内容

講演会『摂食・嚥下障害に対するリハビリテーション』	第3回
講演会『高齢者とのコミュニケーション、その可能性』	「目標指向的介護・リハビリテーションセミナー」
講演会『作業療法士は精神障害者とどう向き合うか』	§7 実用歩行訓練
講演会『行ってみたくなるデイサービス・デイケア』	§8 自己決定権とインフォームドコーペレーション
講演会『身体運動を通じて高齢者の健康増進をどう進めるか』	北見会場 テーマ「生活不活発病からの脱出」 平成17年度第1回目標指向的介護・リハセミナー
第1回「目標指向的介護・リハビリテーションセミナー」	§1 共通言語としてのICFの活用とその考え方
§1 目標指向的アプローチとは	§2 生活不活発病の発見の仕方
§2 廃用症候群	§3 報告4演題
§3 できるADL、しているADL、するADL	網走会場 同上
第2回	平成17年度 テーマ「生活不活発病からの脱出」 第2回目標指向的介護・リハビリテーションセミナー
「目標指向的介護・リハビリテーションセミナー」	§1 講演会『リハビリテーションで地域をつなぐ』
§4 できるADL、しているADL、するADL	§2 研究・報告会 研究・報告会6演題
§5 「できる」と「している」の差を生む因子	講演・コメンテーター 岡田 しげひこ 氏
§6 どこでも行なえるADL	

課題

1. 研修会の内容検討
2. 事務局業務の負担感
3. 支出項目制限による窮屈さ
4. 不安定な事業主体
5. 不明瞭な事業目標

研修会の内容検討

- **研修のテーマや内容の決め方が不安**
 - 思いつき、アンケート、他センターの参考
- **運営委員会は未設置(北網)**
 - 設置すれば決まるのか？ 事務局の安心？
- **地域のニーズとのマッチング**
 - リクエストに応じていけばいいのか

事務局業務の負担感

- 事務局は名誉職？
 - 事務局を引き受けるインセンティブが希薄
 - センターの委託でなく、事務の委託
- 北網地区は2年毎の持ち回り
 - 負担の分散、マンネリの防止
- 管轄保健所との関係
 - 支援センターの成長度、担当者の交代

支出項目制限による窮屈さ

- 実質的な人件費持ち出し
 - 臨時職員は支給対象、その他は不可
 - 研修テーマの打ち合わせ、検討可能な事務局のスタッフの時間こそ負担されるべき

不安定な事業主体

- 運営主体は地域の合議体
- 実質は民間の事務局病院
 - 総会決議の形骸化、事務局病院主導の実態
- 公費で公益事業
 - 事務局病院の不安(これでいいのかな?)

不明瞭な事業目標

- 事業の何が達成できると目標到達なのかが不明
 - 毎年テーマを設定するが、設定後の事業実施は消化試合
 - 他センターの活動を見ると不安が倍増
 - 参加者アンケートでの励ましが唯一の慰め

課題の整理

事業実施の課題

支出項目の
制限

不安定な
事業主体

不明瞭な
事業目標

事務局運営の課題

研修会の検討

事務局の
負担感

今後への提言

- 事務局裁量の拡大
- 市場原理と成果主義の導入
- 客観的な事業評価指標の設定
- 北海道全体の目標設定

